

「『道教儀式與中國社會』國際學術研討會」參加報告記

酒 井 規 史

二〇二一年十月十五日から十一月三十日にかけて、

『『道教儀式與中國社會』國際學術研討會』が開催された。発表者とコメントーターを合わせて百名を超える研究者が登壇し、各時代・各地域・各分野の道教儀禮に關する問題について研究発表と討論が行われた。筆者はこの學會に参加する機會があつたので、その様子を以下に報告したい。

今回の學會は香港大學人文社會研究所の主催、西南交通大學中國宗教研究中心（以下、中國宗教研究中心）・四川大學考古文博學院・四川大學老子研究院・國立政治大

學華人宗教研究所の共催で行われた。そのうち、學會の運営を主に擔當していたのは呂鵬志氏を中心とする中國宗教研究中心であつた。

この學會はもと二〇二〇年四月に西南交通大學で開催される豫定だったが、新型コロナウイルスの流行によつて變更を餘儀なくされた。その後も對面による開催が模索されたもののウィルスの流行がおさまらず、最終的にはオンラインで行われることになった。

今回の學會の特色は、一か月半という長期にわたつて開催されたことである。平日の夜に二人ずつ発表を行い

（水曜日は休み）、週末に發表の録畫の「再放送」が行われるという獨特の形式であった。呂氏が「マラソン式の學會」と表現していたのは言いえて妙であろう。

大規模な國際學會は往々にして日程がタイトであり、質疑の時間も十分とれないことがある。また、會場が複數に分かれているため聴講する際に不便な場合も多い。今回の學會ではオンラインの利點を活かして發表と質疑の時間を確保し、それらの物理的な障壁を取り除くことに成功していた。中國宗教研究中心はオンラインでの研究イベントの經驗を蓄積しており、今回の運営にもそれが活かされていたといえよう⁽¹⁾。

また、國際學會で外國語の發表を長時間聴講するのはやはり疲れるものである。この學會では一日の發表數が限られているため、集中力を保ったまま聴講することができた。筆者にとってはこれもオンライン開催の利點であった。

學會初日の開幕式は David Palmer 氏（香港大學）の司

會によって行われた。李耀輝（舊色園・香港の宗教慈善團體）・梁其姿（香港大學）：Stephen R. Bokenkamp（アリゾナ州立大學）各氏の祝辭、呂鵬志氏からの挨拶のあと、John Lagerwey 氏（フランス高等研究學院および香港中文大學名譽教授）が“*What Daoist Ritual Has to Contribute to Ritual Studies*”と題して基調講演を行った。儀禮研究全體の中での道教儀禮研究の位置づけ、中國文化における儀禮の役割の再考、道教儀禮研究の回顧と現状について述べた。廣い視野から道教儀禮の研究史を總括しており、道教儀禮に關する多様な研究發表が行われた今回の學會の幕開けにふさわしいものであった。さらに、Patrice Fava 氏（フランス極東學院）が監督したドキュメンタリー映畫『全眞道教太上老君祝壽科儀』の上映が行われた。上映後、映畫の主題となった儀禮について質疑と討論が行われた。

以下、今回の學會で行われた研究發表の概要を述べる。紙幅の都合上、一つ一つの發表を詳しく取り上げることとは不可能なので、各發表の概要は中國宗教研究中心のサ

イトを⁽²⁾ご覧いただきたい。なお、今回の學會における研究発表は、主催者側によって「道教儀式史」「現存道教儀式（現存する道教儀式）」「道教視野中的其他中國宗教儀式（道教の視野から見たその他の中國宗教の儀式）」「藝術、考古與道教儀式（藝術・考古學と道教儀式）」という四つのグループに分類されていた。本稿では、さらに細かく九つのグループに分けて、大まかな傾向や筆者の印象を述べることにする。

（一）唐代までの道教儀禮

- ・《老子》所見早期中國宗教儀式——《老子》『物或惡之』宗教內涵考釋（薛聰、呂鵬志）
- ・ The Ambivalence of Yin: Analyzing the Conflicting Images of Women in Early Daoist Rituals（謝波）
- ・ 靈寶齋淵源考辨（呂鵬志）
- ・ 論古靈寶經對般若經中『經臺』的接受與改造（甘沁鑫）
- ・ 靈寶三元齋之出典——《太上洞玄靈寶三元品戒經》合校解題（楊金麗、呂鵬志）

『道教儀式與中國社會』國際學術檢討會「參加報告記

- ・ 方術、外丹與靈寶齋——從葛玄仙傳看中古道教信仰的變遷與接受（趙允嘉、張晨坤）
- ・ 金明七真的經典與教法創造——基於新資料的探討（曹凌）

- ・ 天授河圖、護國佐命——南北朝至唐代道教河圖經法及儀式的基礎研究（白照傑）

- ・ 唐代長安太清宮的『朝獻』儀式（吳楊）

ここで題目を紹介したグループは『老子』から唐代にいたるまでの道教儀禮や、その基盤となる教理をテーマとするものである。その重點のひとつは、後世の道教儀禮の基礎となる靈寶齋である。一群の『靈寶經』をはじめとして、六朝時代の經典には多くの研究の蓄積がなされているが、それをもとに儀禮の研究も進められている。當該分野の研究を牽引してきた呂鵬志氏をはじめ、呂氏の學生も數名登壇した。唐代以前の問題については、資料に制約がある中でいかに新しい視點を打ち出せるかが問われているという印象を持った。

(二) 宋代以降の儀禮に關するもの

・天心正法儀式系統的形成與其發展（筆者）

・莫月鼎使者符法的作用與傳派——以明抄本《九炁雷晶碧潭使者大法》爲中心（許蔚）

・Ritual Techniques for Creating a Divine Persona in Late Imperial Chinese Society: the Case of Daoist Law Enforcer Lord Wang (Vincent Goossart)

次に天心正法や雷法などの宋代以降に出現した儀禮を扱ったものについて見てみよう。今回の學會では専門的にとりあつた発表は少なかつたが、それらの儀禮は現代の中華圏で行われている道教儀禮のルーツとなるものであり、フィールドワークを用いた研究にも關連しているのに注意したい。

フィールドワークの報告や近年の古書市場の状況からすると、膨大な量の儀禮書の寫本が存在していると推測される。『道藏』未收録の寫本を用いた許蔚氏の研究は今後の模範となるものであろう。また、Goossart氏は、道教内外の各種資料を用いて扶乩と儀禮の關わりについ

て明らかにした。今後検討されていく問題であらう。

(三) 清代の各地における道教信仰と儀禮

・從文檢集《雅宜集》管窺高道陳復慧（二七三五—一八

〇二）的奉道軌跡（蔣馥秦）

・Social and Ritual Networks in Southeast China during the 17th and 18th Centuries (Jacopo Scarin)

・The Numinous Ancestor Elevated——On the Deity Lingzu in the Fayan tan Ritual Tradition 四川法言壇

科儀傳統中的「靈祖」(Volker Olles)

以上は清代の四川と蘇州を舞臺にした、道士の儀禮やその法統、道士と信徒との交流、道壇における新しい傳統の形成などをテーマにした發表である。清代は資料が比較的多いため、道教信仰の様子が具體的に明らかにされており、専門外の筆者にとっても參考になることが多かった。

(四) フィールドワークを用いた道教儀禮の研究

・敕水禁壇比較研究…以贛東北上饒地方道教爲中心（林振源、呂煒）

・臺南靈寶道壇演拜九幽儀中的登杵進表科儀（姜守誠）

・贛西北授錄文憑釋錄簡介（閆瑞）

現在の中華圏で行われる道教儀禮と道教の信仰を理解するためには、フィールドワークが最も有効な方法であるの言うまでもない。今回の學會でもフィールドワークにもとづいた研究發表がなされ、儀禮が舉行された際の状況とプログラム、道教信仰を取り巻く環境が明らかにされた。また、文獻資料を用いて現在の道教儀禮のルーツを探る試みも行われていた。現役の道士がコメントーターを擔當した場合もあり、實際に儀禮を行う側からの視點を知ることができて興味深いものであった。

(五) フィールドワークを用いた民間宗教儀禮の研究

・清代以來浙南石倉的儀式傳統初探（巫能昌）

・從推關斬斂法事看贛西北普庵佛教道士所用的閩山法

（楊仁昌、譚偉倫）

・「亦道亦佛」的法主公崇拜——試論張聖君信仰與道教閩山派的互動（黃建興）

・南嶽神戲的歷史淵源與發展演變（田驪）

現代の中華圏においては、佛教をはじめとして、道教以外の宗教においても儀禮は主要な宗教活動である。今回、閩山法・混元教・普庵教の儀禮や傳統、および道教との關係を調査した成果が發表された。これらの宗教は民間の法師が擔い手であり、歴史的資料に乏しく、不明な點が多く殘されている。今後フィールドワークによる成果が蓄積され、全體像が明らかになることを期待したい。

(六) ヤオ族および少數民族と道教儀禮

・《老撾藍靛瑤傳道教核心文庫》——探討文本收集、分類、編目和評估的方法與相關問題（David A. Palmer, 郭慧雯、安蔚）

・The Lanten Manuscripts: Ritual Objects in the

Transmission of Ritual Knowledge (Joseba Estevez)

- ・藍靛瑤對道教儀式框架的應用——分析破獄儀式的文本
(謝孟謙)

- ・Indigenous embryo, Daoist husk: Rice farming, myths, and rituals among the Lanten Yao (孫嘉玥)

- ・瑤族《十王畫》與《十王科》例探(張總)

- ・滇西北白族道教儀式傳統研究——以麗江玉龍縣楊姓道壇爲中心(蕭霽虹、段鵬)

- ・嘉絨藏區的關帝廟及關帝信仰研究(梅紅)

ヤオ族の行う儀禮の中に道教から取り込まれた要素があることはよく知られており、フィールドワークを用いた研究が行われてきた。今回の學會では、David Palmer氏とJoseba Estevez氏が主導する香港中文大學のプロジェクト「瑤道：The Yao Dao Project」による成果を中心として、収集されたヤオ族の文獻の紹介や、フィールドワークによる儀禮研究の報告がなされた。近年、同プロジェクトのほかにも、ヤオ族の文獻の収集と整理が進み、インターネットで情報が公開されるなど、

研究基盤の整備が進んでいる。⁽³⁾今後、ヤオ族と道教儀禮の關係はさらに注目を集めるトピックとなりそうである。また、ヤオ族だけでなく、白族と道教儀禮、チベット族と民間信仰のかかわりをあつかった報告もあった。道教・民間信仰と少数民族の關係も今後さらに検討されるであろう。

(七) 石刻資料と考古學を用いた研究

- ・道教造像起源新探(趙川)

- ・The Introduction of Anthropomorphic Imagery in Daoist Ritual (Gil Raz)

- ・新見十齋記碑與寶頂十齋日像——兼及相關佛道交融十齋日源起展成(張總、曹元琪)

- ・四川丹棱龍鵠山道教造像的調查與研究(白彬、張亮)

- ・重慶江津區朝源觀遺址的考古發現與初步研究(郭振新、牛英彬)

- ・重慶江津石佛寺遺址的考古發現與收穫(牛英彬)
- 今回の學會では、道教と中國社會との関わりもテーマ

である。造像石・摩崖像・碑文などを用いた研究發表では、それらの文物から信徒の組織や宗教活動が検討された。また、道觀と佛寺の考古學的調査の報告では、それらの宗教施設の沿革や宗教活動を復元する試みがなされた。道教に關連する文物や遺跡は佛教と比べると數は少ないが、文獻資料からは分からない信仰の實態を傳えてくれる貴重なものであると再確認できた。

(八) 繪畫(圖像)を用いた研究

- ・冥府審判・歴史故事的生動再現(李遠國、李黎鶴)
- ・内煉與儀式——越南河内道教神像畫探析(陳文龍、

Dominique Lemaire)

道教の世界觀や、信仰される神々を視覺的に示してくれるのが繪畫である。今回、道教儀禮が行われる場にかける水陸畫と、道士が儀禮を行う際のイメージが描かれた繪畫について發表が行われた。近年、フィールドワークや古美術市場の活性化により、道士や法師が所藏していた儀禮で用いられる繪畫が數多く收集されており、

研究の對象となる作品が増えている。今後、道教儀禮と繪畫(圖像)の關係はさらに検討されていくであろう。

(九) 儒教と佛教

- ・九獻儀節考・以崔靈恩《三禮義宗》爲中心的考察(張曉宇)

・傳大士彌勒分身形象的思想淵源(陳志遠)

・唐宋時期的摩利支天信仰及其流行(高振宏)

・《夷堅志》記載的宋代佛教齋供儀式(侯沖)

・論宋代駢體茶榜文(沈如泉)

今回、道教だけでなく、儒教と佛教に關する發表もラインナップされていた。ほかの思想・宗教との比較や關係性の検討を通して、道教の儀禮を廣く中國文化の中でとらえようとする意圖があつたと思われる。

閉會式も開幕式と同じくDavid Palmer氏が司會をつとめた。はじめにPatrice Fava氏の著作の中國語譯『湖南道士和法師的神化——新化縣道教神像微觀歷史』が出版

されたのを記念して、新刊發表會が行われた。本書はフィールドワークにより、湖南で作成された神像とその背景にある道士や法師の傳統を明らかにしたものである。呂鵬志氏と譯者の巫能昌氏が内容を紹介したあとで質疑が行われた。

續いて、呂鵬志氏が全體の總括を行った。呂氏は今回の學會の成果として、それぞれの發表が新しい觀點を提示したこと、文献資料・考古學的な資料・現地調査の報告など様々な資料が紹介されたこと、様々な研究方法が試みられたこと、研究者と道士の交流がはかられたことをあげていた。

また、上述したとおり、今回の學會において研究發表は主催者により大きく四つのグループに分けられていたが、それぞれの代表が總括を行った。「道教儀式史」は李志鴻氏（中國社會科學院）、「現存道教儀式」は林振源氏（國立政治大學）、「道教視野中的其他中國宗教儀式」は侯冲氏（上海師範大學）、「藝術、考古與道教儀式」は白彬氏（四川大學）が擔當した。さらに、コメンテーター

ターの代表として Vincent Goossart 氏（フランス高等研究學院）、ゲストの John Lagerwey 氏が今回の學會の印象を述べた。その後の自由討論では参加した研究者たちも意見を述べ、盛會のうちに學會は終了した。

以上、簡単ではあるが今回の學會における研究發表と開幕式・閉幕式の概要を述べた。道教儀禮について、様々な資料・研究方法を用いた學術發表と討議が行われたことをお伝えできたかと思う。道教儀禮をテーマとした學會としては、今回はこれまでで最大規模のものであり、道教儀禮の研究史において、（開催方法もふくめて）特筆される學會になると思われる。

なお、奇しくも道教儀禮研究の先驅者である Kristofer Schipper 氏が亡くなられたのは本學會開催の八か月前のことであった。John Lagerwey 氏や呂鵬志氏などその學統を受け継ぐ研究者、および間接的に影響を受けている（筆者も含めた）多くの研究者たちが参加した今回の學會は、道教儀禮研究を推進した Schipper 氏の遺志が

繼承されていることを示していたといえよう。また、中堅・若手の研究者たちが意欲的な発表をするのを聴講して、道教儀禮の研究が今後も進展していくことを確信した次第である。

註

- (1) 中國宗教研究中心の活動については、拙稿「道教關連のオンライン研究活動について（二〇二〇年～二〇二一年九月）」（『東方宗教』第一三七號、二〇二一年）を参照。

- (2) 各発表や講演・討論の概要は（全てではないが）中國宗教研究中心のサイトの「新聞動態」の項目（https://cscr.swjtu.edu.cn/information?sort_id=39）に掲載されているので、興味のある方はそちらを閲覧いただきたい。なお、本稿に記すURLはいずれも二〇二二年六月に閲覧したものである。

また、論文は発表済みだが、學術交流を目的とした参加もあった。以下に題目を紹介する。

- ・ The Peach Blossom Spring's Long History as a Sacred Site in Northern Hunan (Mark Meulenbeld)
- ・ 北朝道教造像再研究（張勳燎）
- (3) 「瑤道：The Yao Dao Project」の詳細については、

『道教儀式與中國社會』國際學術檢討會「參加報告記

公式ウェブサイトを参照（<https://yaodaohku.hk/>）。大英圖書館（British Library）のサイトでは、このプロジェクトで収集された文獻の寫眞が公開されている。上述の公式サイトの「Manuscripts」の項目からリンクが貼られているので参照されたい（その中から一例をあげておく。<https://eap.bl.uk/project/EAP1126/search>）。

また、オックスフォード大學のボドリアン圖書館（Bodleian Library）の「Chinese Collections Digitization Project」のサイトでも、ヤオ族の文獻のデジタル畫像が公開された（<https://digital.bodleian.ox.ac.uk/collections/chinese-digitization-project/>）。

日本では廣田律子氏をリーダーとするヤオ族文化研究所がフィールドワークを行い、公式サイト（<https://www.yaoken.org/>）や機關紙の『通訊』で研究成果を積極的に公開している。